

スポーツ競技団体の財源確保と競技への影響

—関西大学バレーボールリーグ戦における試合球の制度に着目して—

上山 紗季 (競技スポーツ学科 コーチングコース)
指導教員 鳥羽 賢二

キーワード：スポーツ競技団体、財源確保、プレイヤーズファースト

1. はじめに

2016年に開催されたリオオリンピックでは、日本代表選手団が史上最多のメダルを獲得した。その背景には、競技におけるルールを定め、競技を主催しているスポーツ競技団体がある。スポーツ競技団体は、「人」「モノ」「かね」「情報」といったさまざまなことをコントロールし、競技力の振興や競技力向上を図っている。

バレーボール競技には、さまざまなルールのもと競技が行われており、主に使用しているボールにも指定がある。そのため、指定されたボールをシーズンごとに使用している。そのことは、選手からすればボールがシーズンごとに替わるため、プレーに支障をきたすといったことをよく耳にする。

そこで本研究は、なぜこのような制度が執り行われているかを明らかにし、プレイヤーズファーストを重視した試合球の制度を試案することを目的とする。

2. 研究方法

1) 文献調査：スポーツ政策論、日本バレーボール協会、関西大学バレーボール連盟、ミカサ社、モルテン社、日本野球機構、日本卓球協会等の文献調査。

2) アンケート調査：対象者（本学の男女バレーボール部員 男子29名、女子33名）

3) 以上のエビデンスをもとに、プレイヤーズファーストを重視した望ましい試合球の制度を試案していく。

3. 調査結果と考察

①JVA¹の財源構成から、協賛金と用具等公認・検定料収益が収入全体の29%を占めていた。その中で、ボールの公認・検定料が大きな額を占めていると推察される。その傘下にある関西学連はJVAの指示により大会の使用球の指定がある。

②図1に示したように81%の学生プレイヤー

が、2社のボールがシーズンごとに替わることに對し、プレーがしにくいと感じると回答している。このことから、試合球が交互に替わることは競技に大きく影響している。

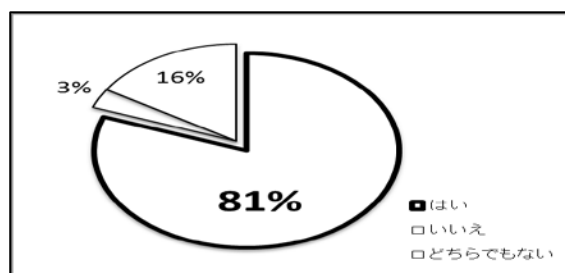


図1 ボールが入れ替わることでプレーがしにくいと感じるか (筆者作成)

4. まとめ

調査結果と他競技団体の事例をもとに、図2に示したようにプレイヤーズファーストを重視した試合球の制度について2つのことを試案し、本研究のまとめとした。

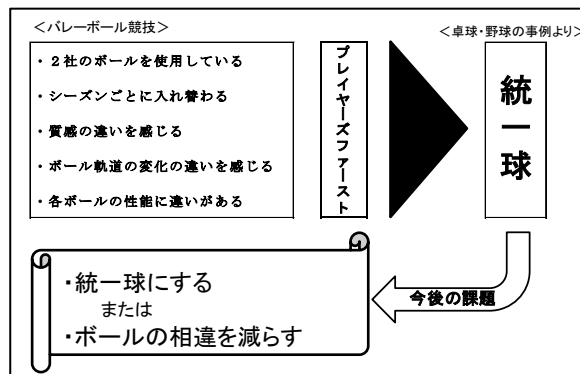


図2 統一球に向けての課題解決案 (筆者作成)

選手の声を反映させ、①1社限定にすること。または、②2社ボールの質感の相違を減らすこと。この2つのいずれかを行うことで、競技者は、ベストなパフォーマンスを発揮することができる。

このことにより、競技団体の財源との兼ね合いが出てくると想定され、それについての検討が必要となる。

5. 主な引用・参考文献

・鳥羽賢二 他 (2011)「スポーツの経済と政策」晃洋書房

¹ JVA：日本バレーボール協会は、日本全国のバレーボール競技団体を統括している。関西大学バレーボールリーグ戦を主催する関西大学バレーボール連盟もその傘下にある。